

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより
第28号
2019(平成31)年4月26日
(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

大和機で織り上げる — 今後の資料として —

大和機(やまとばた)を用いて織りはじめた初めての作品を、ようやく織り上げることができました。整経長400cm。整経重125g。織り巾39cm。経糸数726本。織り上がりの長さ300cm。織筵45度。緯糸密度18本。湯のし後の巾38cm。長さ290cm。重量205.0g。

経糸は30番双糸です。地糸に藍紺を用い、浅葱(あさぎ)、伊達緋糸(だてがすりいと)を配しました。緯糸も30番双糸で藍紺の地糸1種のみ。作品としては藍紺と浅葱の縦縞伊達緋(たてじまだてがすり)となります。

今後の参考資料とするために、整経から織り上げまでの記録を以下に記しておきます。

整経は、2018年11月23日。縞柄は2種類。仮にA群、B群としてA群30本、B群18本、B'16本。糸の並びはA群が左から浅葱4本、地糸2本、浅葱6本、地糸2本、緋糸2本、地糸2本、浅葱6本、地糸2本、浅葱4本で計30本。B群は左から地糸8本、緋糸2本、地糸8本で計18本。B'地糸16本となります。

糸枠は19枠を使用。糸枠の並べ方は左からB群の地糸4枠、緋糸1枠、地糸4枠。次にA群を2つのグループに分けて、ア類を浅葱2枠、地糸1枠、浅葱2枠。イ類を浅葱1枠、地糸1枠、緋糸1枠、地糸1枠、浅葱1枠としました。

糸の取り方は、B'は、B群から緋糸を飛ばして地糸8本を一度にとります(往復で16本となる)。B群も9本を一度にとり(往復で18本)、A群はア、イ、アの順で各5本ずつ計15本をとります(往復で30本)。

糸の並びは、B' A B B A B B A B B A B B A B B A B B A B B A B B A B B A B B A B' です。

したがって、糸の本数はA群30本×11=330本。B群18本×20=360本。B'16本×2=32本。計722本。ただし、左右両端の地糸のみ強度確保の目的で2本取りにするため+4本で計726本となります。

もじり(綜統)通しは、2018年12月9日、10日午後、17日午前中。トータルでもじり通しに約8時間を要したことになります。726本の経糸を、1本ずつ交互に糸綜統に入れていきます。もじり通しで一番大切なことは、1と2の糸が必ず交互に入っているということです。そのために、20本ほど通し終えたところで、必ず確認を行います。

おさ(筵)通しは、2018年12月17日の午後。今回は双羽(1と2の糸をセットにして一つの筵羽に通していくこと)。ポイントは空き羽(筵目を飛ばすこと)をつくらないことと、混み出し(1つの羽に2セット通してしまうこと)をつくらないこと。筵通しには約3時間を要しました。

機掛け(はたかけ)は、2018年12月20日。この日は織り付けのみを行い、一旦機から下ろし、2019年3月3日よりあらためて本格的に織り始めました。

織り上げは、2019年4月21日。300cmを織るのに22時間近くを要しました。経糸の張力の調整が課題です。



大和機で織り上げた縦縞伊達緋

----- Monthly Data -----

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 平成31年3月24日～平成31年4月23日)

北海道2、福島県1、茨城県1、埼玉県2、東京都3、岐阜県1、三重県2、大阪府2、福岡県1、宮崎県1

【H.A.M.A.木綿庵】(平成31年3月24日～平成31年4月23日)

メールを含む各種相談件数4、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数0件



《綿の栽培記録 2019》 — 平成31年度版 その3 —

今年は3月下旬から4月下旬にかけて予想に反して雨が少なく、気温の高い日が続きました。

4月3日に1号畑の綿畝に鶏糞鋤込み。4月9日、2号東隣畑に鶏糞鋤込み。4月13日、2号西隣畑に鶏糞鋤込み。また、今回あらたに乙木町内の休耕田約100坪をお借りして、カラードコットンを栽培することにし、4月7日に鶏糞を鋤込みました。写真は中：1号畑、右：乙木町内100坪畑。



《紅花と藍の栽培記録 2019》 — 平成31年度版 その1 —

今年も紅花と藍の栽培をはじめました。紅花の種は、昨年8月に山形県河北町の紅花資料館から購入したものです。藍は、昨年徳島県にある阿波藍資料館「三木文庫」の学芸員の方より譲っていただいた種から栽培をはじめたものです。紅花は4月15日に播種。4月26日現在、138穴中、91穴で発芽を確認しました。藍は、昨年実をつけた株が畑に種を落とし、その種が自然に発芽したものを移植しました。11穴で栽培中です。写真は左2枚が紅花の畝、右2枚が藍の畝。



【綿の加工の作業記録】（梅田1人の作業量）

・糸車を用いての糸紡ぎ量（和綿：平成28年、2016産。丹羽正行氏による打ち綿）

※ただし、4月8日以降は平成29年、2017年産の和綿に変更。

3月24日～4月23日（作業実日数22日）糸の総量110.8g（29.5匁）総時間252分（4時間12分）

※1分間≒0.440g 1時間≒26.4g（7.0匁）

【研修等の記録】

- ・平成31年03月29日「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」にて、大和機を用いて機織り
- ・平成31年04月05日「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」にて、大和機を用いて機織り
- ・平成31年04月07日「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」にて、大和機を用いて機織り
- ・平成31年04月14日「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」にて、大和機を用いて機織り
- ・平成31年04月21日「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」にて、大和機を用いて機織り。織り上げ

【左：巾出し用の伸子、中：下から見た綜統の様子、右：織り上げ直前に使用する特別の杼】

